

第1号

月寒・東月寒地区 学校配置検討委員会ニュース

発行
2023年4月27日

発行元：月寒・東月寒地区学校配置検討委員会事務局
(札幌市教育委員会生涯学習部学校施設課学校配置マネジメント担当)

札幌市では、少子化の影響により、児童生徒数の減少とともに1校あたりの学級数が減少する「学校の小規模化」が進んでいます。

「学校配置検討委員会」とは、地域・保護者・学校関係者の代表者で構成され、学校の小規模化により生じる課題を整理し、課題解決のための方策について、行政と連携を図りながら検討していく場です。

1. 「学校配置検討委員会」設立の背景と目的

あやめ野小学校は、増加する月寒東小学校と羊丘小学校の児童数に対応するために、両校の通学区域を再編し、1985年（昭和60年）に開校した学校です。

あやめ野小学校は、開校した1985年（昭和60年）の児童数664人（18学級）から、少子化の影響により児童数が減少傾向にあり、「学校の小規模化」が進んでいます。

こうした状況を踏まえ、月寒・東月寒地区に「学校配置検討委員会」を設置し、現在、そして未来を担う子どもたちにより良い教育環境を提供するための検討を行うことにしました。

検討委員会の開催状況については、「学校配置検討委員会ニュース」により皆様にお知らせしますので、ぜひ多くのご意見をお寄せください。

2. あやめ野小学校・月寒小学校・月寒東小学校の概要

(2022年5月1日現在)

学校名	あやめ野小学校	月寒小学校	月寒東小学校
所在地	豊平区月寒東1条11丁目	豊平区月寒西2条5丁目	豊平区月寒東3条10丁目
児童数/学級数	162人/6学級	528人/17学級	567人/18学級
特別支援学級	自閉・情緒5人/1学級	自閉・情緒12人/2学級 知的10人/2学級	自閉・情緒9人/2学級 知的6人/1学級
開校年次	1985年(昭和60年)	1882年(明治15年)	1966年(昭和41年)
教職員数	14人	32人	31人
校舎建築年・築年数	1984年(昭和59年) 築38年	1973年(昭和48年) 築49年	2017年(平成29年) 築5年
校地面積	18,764㎡	19,259㎡	14,066㎡

※特別支援学級の「自閉・情緒」は「自閉症・情緒障がい」、「知的」は「知的障がい」の略

3. 「学校規模適正化」について

札幌市教育委員会では、学校が小規模化することで生じる課題に対応するために、保護者、有識者、公募委員などで構成される「札幌市立小中学校適正配置検討懇談会」の答申に基づき、2007年12月に「札幌市立小中学校の学校規模の適正化に関する基本方針」を策定し、対象となる地区や学校を予め選定の上、学校規模適正化の取組を進めてきました。

その後、札幌市の児童生徒数はさらに減少し、今後も増加が見込まれる小規模校に適応できるよう「札幌市立小中学校適正配置審議会」からの答申を踏まえて、2018年4月に基本方針を見直しました。新たな基本方針では、全ての小規模校を対象に学校規模適正化の取組を進めるとともに、札幌市の考え方である「公共施設の長寿命化、複合化による地域コミュニティの再構築」も踏まえ、施設面からも学校規模適正化による教育効果の発揮を図ることとしました。

(1) 小規模校のメリットと課題

小規模校のメリット

- ▶一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を把握しやすい。
- ▶意見や感想を發表できる機会が多くなる。
- ▶異年齢の学習活動を組みやすく、校外学習などを機動的に行いやすい。
- ▶グラウンドや体育館、特別教室などが余裕をもって使える。

など

小規模校の課題

- ▶クラス替えが困難となり、人間関係が固定化し集団活動の機会が限られる。
- ▶運動会や学習発表会などの学校行事において、種目や演目が限られる。
- ▶様々な価値観への出会い、社会性や協調性、コミュニケーション能力を伸ばす機会が限られる。
- ▶学校行事において、児童生徒の安全、安心の確保や円滑な運営に必要な体制を整備しにくい。

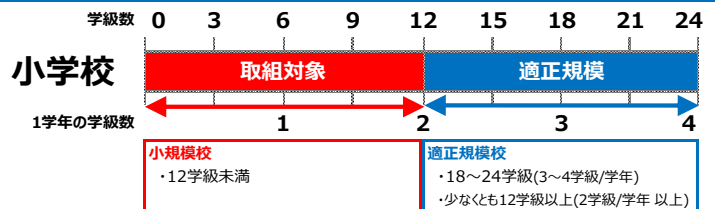
など

(2) 適正な学校規模

小学校

18～24 学級(1 学年 3～4 学級)

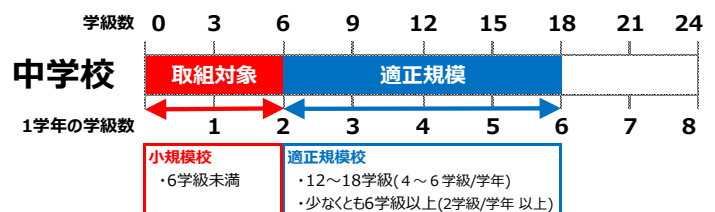
※少なくとも 12 学級以上(1 学年 2 学級以上)



中学校

12～18 学級(1 学年 4～6 学級)

※少なくとも 6 学級以上(1 学年 2 学級以上)



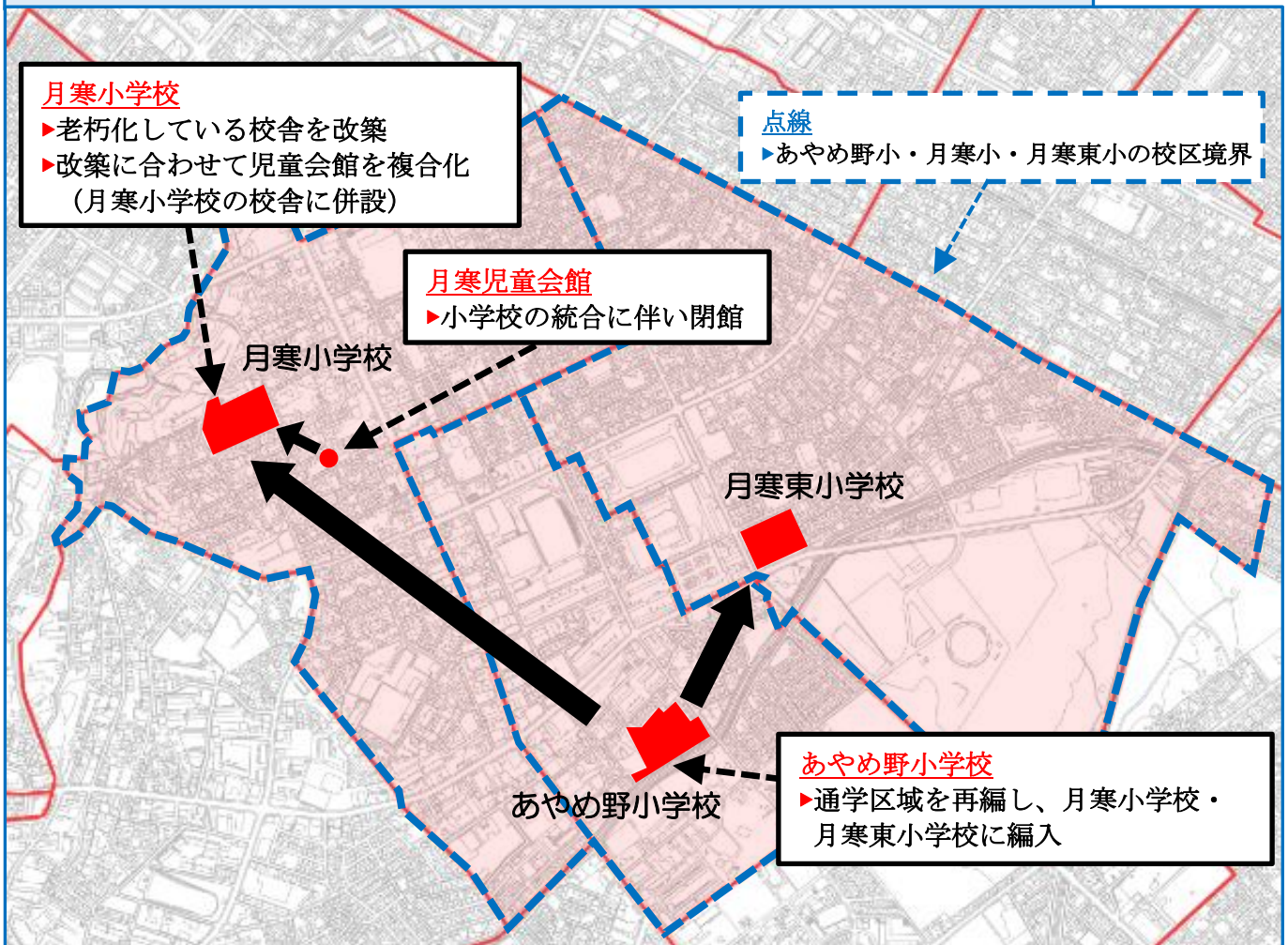
小学校は 12 学級未満、中学校は 6 学級未満の学校のことを「小規模校」としています。

4. 月寒・東月寒地区における取組案

札幌市と教育委員会は、「学校配置検討委員会」（以下、「検討委員会」）で協議を進めるためのたたき台となる「取組案」を作成し、第1回検討委員会で提示しました。

「取組案」は1つの案であり決定事項ではありません

あやめ野小学校・月寒小学校・月寒東小学校を中心とした取組案



参考：児童数学級数の推計(2022年5月1日現在)

(単位・・・児童数：人 / 学級数：学級)

	2022 (R4)		2023 (R5)		2024 (R6)		2025 (R7)		2026 (R8)		2027 (R9)		2028 (R10)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
あやめ野小	162	6	163	7	163	6	167	6	178	6	185	6	198	7
月寒小	528	17	509	17	491	17	445	16	429	16	399	15	394	15
月寒東小	567	18	550	18	527	18	527	19	521	19	481	17	461	17

(1) 小学校の統合

- ▶小規模化により生じる課題を解消するために、あやめ野小学校の通学区域を再編し、月寒小学校・月寒東小学校に編入します。

(2) 学校施設の整備

- ▶あやめ野小学校の通学区域の再編に合わせて、月寒小学校の校舎を改築します。

(3) 公共施設の複合化

- ▶月寒小学校の改築に合わせて、小学校に「児童会館」を併設(複合化)します。

児童会館 300 m² + 多目的ホール 150 m² (多目的ホールは一般利用可)
※複合化に伴い月寒児童会館は閉館

(4) あやめ野小学校跡地の活用

- ▶公共利用の有無を札幌市で検討します。
- ▶公共利用が見込める場合は、市有施設として再活用します。
- ▶公共利用が見込めない場合は、地域ニーズを踏まえた条件付きで民間事業者への売却を検討します。

(5) 月寒児童会館跡地の活用

- ▶公共利用の有無を札幌市で検討します。
- ▶公共利用が見込める場合は、市有施設として再活用します。
- ▶公共利用が見込めない場合は、売却を検討します。

コミュニティ機能としての活用を希望する場合は、地域による自主運営を条件に、建物を市民集会施設として利用することも可能です。この場合、建物は不動産鑑定評価額で譲渡し、土地は有償貸付となります。

5. 第1回検討委員会について

1回目の検討委員会では、代表委員の選出や検討委員会の運営方法の決定、事務局からの「取組案」説明、「取組案」に関する意見交換、委員と市・教育委員会職員で質疑応答を行いました。

(1) 開催概要

- ▶ 会議名 第1回 月寒・東月寒地区 学校配置検討委員会
- ▶ 開催日時 2023年(令和5年)2月27日月曜日 16時00分～17時30分
- ▶ 開催場所 月寒公民館(豊平区月寒中央通7丁目8番19号)
- ▶ 構成委員 1. 月寒地区町内会連合会、東月寒地区町内会連合会、あやめ野小学校PTA、月寒小学校PTA、月寒東小学校PTAから推薦された者
2. あやめ野小学校、月寒小学校、月寒東小学校の校長

※委員名簿・・・8ページ参照

【札幌市・教育委員会からの参加】

危機管理局、まちづくり政策局、財政局、市民文化局、子ども未来局、教育委員会の関係課職員

(2) 検討委員会の運営方法の決定

- ▶ 代表委員には、月寒地区町内会連合会会長の山田重孝氏を選出しました。
- ▶ 検討委員会の「公開・非公開」について協議し、自由で活発な議論を行うために「非公開」としました。
- ▶ 検討委員会の開催状況については、「検討委員会ニュース」を作成し、学校から保護者世帯への配付、あやめ野小学校、月寒小学校、月寒東小学校の校区内全世帯にポスティング、教育委員会ホームページに掲載することで、地域の皆様に周知することとしました。
- ▶ 保護者や地域の皆様からのご意見やご要望については、「検討委員会ニュース」により募集し、お寄せいただいたご意見等については、事務局(教育委員会)で受け付けて、次回検討委員会で報告することとしました。

(3) 「取組案」に対する意見・質疑応答の概要

- ▶ 委員からの意見や質問、札幌市・教育委員会職員からの回答などについて、以下、概要を掲載しています。

※類似の発言内容をまとめるなど文言を整理して掲載しています。

※「●」・・・委員からの意見、質問等

※「⇒」・・・代表委員、札幌市・教育委員会職員からの説明、回答

<学校規模適正化の取組について>

- あやめ野小学校の通学区域の再編や、月寒小学校の校舎を改築することになった場合、何年後を見込んでいるか。

⇒(教育委員会学校配置マネジメント担当課)

- ・検討委員会における検討期間は、小規模化の課題解消に関することなどの検討結果をまとめた意見書を札幌市、教育委員会に提出するまでとしています。
- ・意見書の提出後、必要に応じて学校施設を整備し、整備が完了してから通学区域再編後の学校に通っていただくこととなりますが、具体的な検討期間は定めておりません。

- 札幌ドームを本拠地としていた北海道日本ハムファイターズが、本拠地を移転した影響で、ドーム周辺の地価が下落し、月寒地区に移り住んでくる人が増えるかもしれない。
- 月寒小学校の改築や児童会館の複合化については、いったん議論から切り離し、まずは子どもたちのために、あやめ野小学校をどうするのかということを考えていく必要がある。
- あやめ野小学校PTA役員を務めたことがあるので、あやめ野小学校には愛着がある。令和4年から令和10年にかけて児童数が増えていることを考えると、廃校にしてしまうのはもったいないが、クラス替えができない状態が続いているので、きれいな校舎で、クラス替えを通じて様々な人間関係を築けることは良いことだと思う。
- あやめ野小学校の校区内における児童の分布状況が分かれば、校区の割り方も見えてくるのではないか。

⇒(教育委員会学校配置マネジメント担当課)

- ・あやめ野小学校の校区内の児童数分布については、次回、検討委員会でお示しすることはできます。ただし、指定校以外に通っている児童もいるため、正確な数字にならないことを予めご承知おきください。

- 校区の再編は、あやめ野小学校とみのり保育所の間を通っている二条線で区切るとすっきりする。
- あやめ野小学校校区の西端（つきさっぷ中央公園付近）からあやめ野中学校までの通学距離が長いので、この近辺は月寒小学校の校区に再編し、中学校も月

寒中学校に進学できるような校区にした方が通学しやすいのではないかと。

- 一定期間、通いたい学校を選択できるようにできれば、進学状況により、どこで校区を割るかが見えてくるのではないかと。
- 保護者としては、特に低学年の通学距離が気になる。
- あやめ野小学校校区から月寒東小学校に通うことになる場合、月寒東小学校周辺の渋滞している交差点を渡る必要がある。安全対策について話し合い、地域で準備を進めていかなければならない。
- 児童数に合わせて教員数が配置されているので、小規模校では、教員の数も少なくなる。小規模校では、クラス内で問題が起きなければ、教員の目がよく行き届くといったメリットがあるが、人間関係がうまくいかないなどの問題が起きてしまうと、卒業まで問題の解消ができない可能性もある。そのようなトラブルがあった時のために、クラス替えができる点や対応できる教員が複数いるという点において、ある程度の学校規模があった方がよい。
- あやめ野小学校がなくなってしまうことは寂しいが、保護者としては、統合することが決まってしまうと「しょうがない」という気持ちになるので、子どもたちのために、統合に向けてスムーズに進めるためにはどうしたらよいのかを考えていくことが大事だと思う。
- これから小学校に入学する子どもがいる保護者や、教員の考えを踏まえ、あやめ野小学校の将来を委員の中で決めるのは責任が重すぎる。

⇒(教育委員会学校配置マネジメント担当課)

- ・学校配置検討委員会の中で決定するのではなく、最終的に提出していただく意見書の内容を尊重した上で、市、教育委員会が最終決定します。

(4) 次回の検討委員会について

- ▶会議名 第2回 月寒・東月寒地区 学校配置検討委員会
- ▶開催日時 2023年(令和5年)6月15日木曜日 16時00分～17時30分
- ▶開催場所 月寒公民館(豊平区月寒中央通7丁目8番19号)

次回(第2回)検討委員会の議題(予定)

- ・第1回検討委員会の振り返り
- ・地域や保護者の皆様から寄せられたご意見等の紹介
- ・小規模化する小学校で生じる課題の整理と解決するための方法
- ・あやめ野小学校の校区内における児童数の分布

ご意見、ご質問は、下記事務局までお寄せください。

月寒・東月寒地区 学校配置検討委員会事務局

- ▶札幌市教育委員会生涯学習部学校施設課（学校配置マネジメント担当）
- ▶電話：011-211-3836 FAX：011-211-3837
- ▶Mail：gakkokibo@city.sapporo.jp

検討委員会の開催概要は札幌市教育委員会のホームページにも掲載しています。
<https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/tsukisamu-higashitsukisamu.html>



さっぽろ市
02-S01-23-587
R5-2-435

SAPPORO

※事務局の「学校規模適正化担当」は、2023年(令和5年)4月より部署名を「学校配置マネジメント担当」に変更しました。